

11

特集 脱毛を極める

開業医療機関における
脱毛の位置づけ

塚原孝浩

つかはらクリニック 院長

エステ脱毛サロンのみならず、脱毛専門チェーンクリニックの台頭、近隣クリニックの競合など、単独クリニックにとって脱毛を取り巻く環境は厳しさを増している。しかし、その需要はまだ底堅く、今も美容開業医療機関にとって脱毛は主要な処置であることはまちがいない。今後もクリニック運営上重要な位置づけとなる。

本稿では、臨床現場での脱毛患者の選択、レーザー脱毛の当院での適応、初診時のインフォームド・コンセント、施術に関する注意事項、脱毛後のアフターケアに関して解説する。

脱毛の位置づけ

クリニック内での位置づけ

当院ではキャンデラ社製GentleLASE Proを4機導入し、レーザー脱毛士の資格を持つ看護師8人体制で脱毛を行っている。当院では2003年をピークに脱毛が減少傾向にあったが、2020年は増加に転じ、単独手技としては今も最も大きな割合を占める処置分野であり、脱毛はクリニックの経営面での貢献度が高い(図1)。また、一部分の部分的脱毛から開始して、他の部位も脱毛を希望され、いわゆるV・I・O脱毛や全身脱毛へと継続につながるものが多く、自院を気に入ってもらえればリピーターとなりやすい。

しかし、脱毛の患者が他の治療につながることは少なく、医療脱毛の確実な減毛効果のおかげで、ほとんどの患者が、

ほぼ数年のうちに終了を迎える。全身脱毛が終了すれば、わずかに残る毛のメンテナンス的な処置でまれに来院される人と、頑固に残った毛の処置に絶縁針脱毛に流れる人がいる程度である。

シミ治療などのアンチエイジング治療の場合は、シワ治療やたるみ治療といった他の治療へとつながりやすいが、脱毛は一人の患者が何年も継続して通院される処置ではない。しかし、その需要はまだ底堅く、今後も美容開業医療機関にとって重要な主軸処置であることはまちがいない。

脱毛業界での位置づけ

脱毛は、家庭用脱毛器まで販売されるに至り、消費者の選択は、自己処置、エステ脱毛(ワックス脱毛、光脱毛、針脱毛)、医療脱毛と選択肢が増えてきている。医療脱毛

においても、メラニン選択式脱毛、蓄熱式脱毛、絶縁針脱毛とさらに選択肢が増える。医療機関にとってのアドバンテージは、その確実性と安全性、万が一の際の医師による治療を受けられる安心感である。医療機関以外での脱毛に価格を含めたメリットがあったとしても、医師のバックアップに代えがたい安心感はない。

エステのみならず、脱毛専門チェーンクリニックの出現、近隣クリニックの競合などを知ると、単独クリニックにおける脱毛の未来は暗く感じるかもしれない(図2)。しかし、患者は価格のみでクリニックを選択するわけではなく、クリニック全体の雰囲気、カウンセリングを行う医師やスタッフの対応、処置者の技術や接客、話し方、トラブル発生時の対応など、総合的に判断される(表1)。患者はその良さを正當に評価するので、1つ1つ丁寧にやるべきことを積み重ねていけば、持続的に脱毛の患者が絶えることはない。

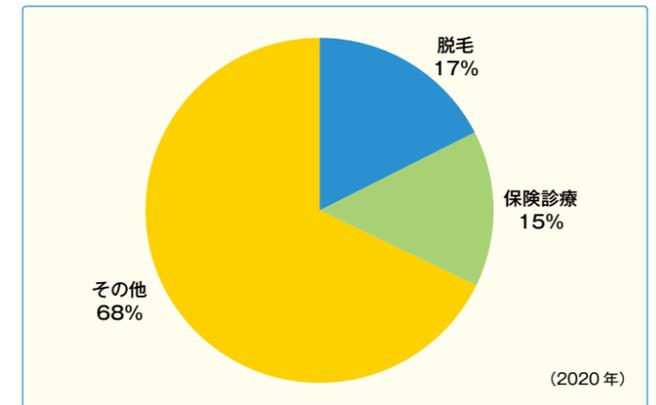


図1 当院の内訳

患者選択

脱毛を希望する患者のほとんどにレーザー脱毛が適応となるが、少数ながら適応とならない禁忌の患者がいるので、可能な状態かを適切に判断する。

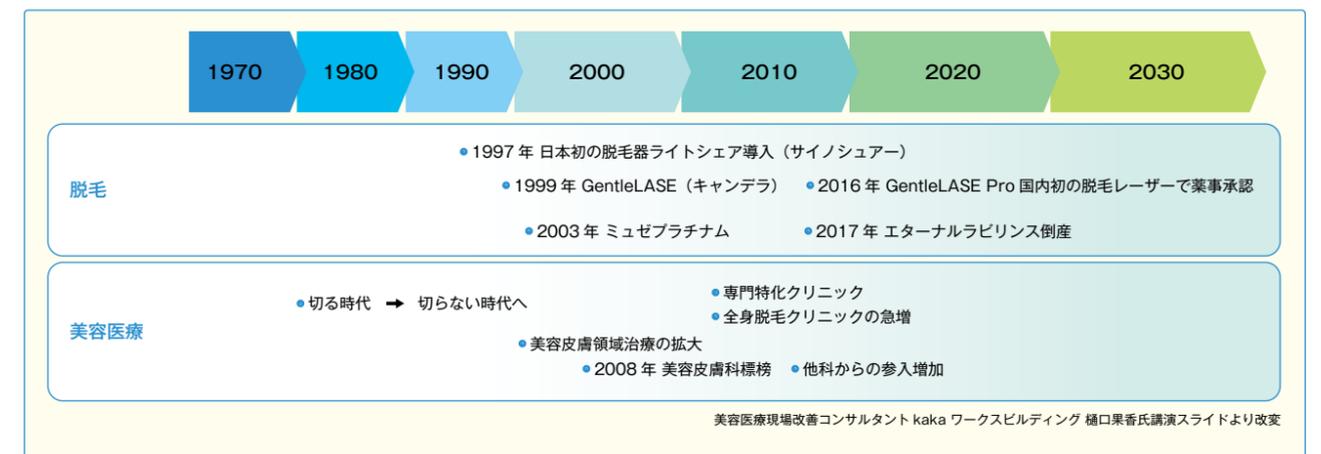


図2 美容医療・脱毛の歴史